（日曜日休刊）（定價金三錢）

（郵便局認可）（本號六頁）

時事新報

第千三百七十七號

明治十九年九月十日 金曜日
（癸酉）
（西暦一千八百八十六年）

地方看客へ社告

時事新報豫約御購讀被成下候に付ては日々御郵送中上候新報帯封御名前の脇に兼て御拂入の前金相切れ候期日記入仕置き右日限に至り更に引續き前金御拂入無之時は其日限り新報郵送相見合せ候筈の處從來久しく御購讀被下居り御名前も熟知の御方に限りて數日前金延着の爲め一時新報は郵送を停止して御不自由相掛け候も不本意れ至と存ぜ斯樣の看客に對しては既に前金相切れ候にも拘はらず特に郵送停止の日限を猶豫仕候事も是迄往々有之候處斯くて一二例外のもの有之爲め全体の計算上に非常の混雑を生ぜ大に社務の整否に關係を及ぼし候に付以來は誰れ彼れの區別なく萬事規則の通り取扱ひ時事新報の郵送は帯封の日限まで迄て必ず停止仕る筈に御座候間左樣御承知被成下度此段爲念申上置候

時事新報

朝鮮の内憂は日清兩國の福に非ず

古來亡國の跡を見るに其近因は内憂外患の二者に過ぎず而して内憂常に之れが主と爲り追て外患の客を誘致するものゝ如き内に憂なきものは外患も左まで恐るゝに足らず或は爲めに人心を奮勵もるの功能もあり敵國外患なれども國常に亡ぶるとは此意味あらん若し夫れ内憂なるに當りて敵患近く我に迫り國中不平の徒或は内廟の意と表し或は其力を假りて我が與みし易きと示す時は亡國の端愛に開けて復た之を閉ぢ可らざるあり支那の五代及び趙宋の世には權臣時に位を爭ひ互に相陷擠せんとして或は北虜の力を假り或は賄賂を以て之を誘ふ紛々擾々我弱を示したるが故に忽ち其亡ぼす所と爲りたり波蘭にては貴族人民と相爭ひ内訌百端時に隣境を騒がす程なりしのみ忽ち露獨墺の三國に見込まれて其三分する所と爲れり近くは彼の安南の如き廷臣互に權を爭ひ屢々國王を廢立し或は之を弑する等内の鬩爭に忙はしかりしのみ佛國輙ち其隙に乘じて之を其保護國と爲すに至れり内憂能く外患を招ぎて遂に其亡國を促す古來の例證其一班を見る可きあり我輩熟々近時朝鮮國の有樣を見るに權臣の紛爭頻年絶ゑず明治十五年大院君の乱と云ひ同十七年金玉均朴泳孝等の變と云ひ又近日京城の混雑と云ひ其事の輕重義に合ふと否とは論ずく畢竟幾場の内訌にして一變一乱隣を天下に傳へ與國に共に爲すに足らざるを示し敵國には其與し易きを知らしむ、其然る所以のものは樣々の事情もあらんと雖ども詰り國民の無氣力無見識、國是を一定して上下之れに遵ふと能はざるが故なり日本開國の後は尊王の一主義を以て人心を貫き大抵の不平紛擾は尊王主義に先んじて之を抑へ上下一心能く維新の功を成したるあれども朝鮮にては事大と云ひ獨立と云ふ其主義は一二人の主義として國中の人心に對しては最上權を占ひると能はざるが故に人々個々其志を伸べんとして不平紛擾已むとなく實に鹿を逐ふものゝ山を見ずの喩に漏れず頭を擧げて隣國の形勢を觀望もるに暇ならずして歩々亡國の跡を履むは氣の毒千萬の事也

左るにても不審なるは支那政府の擧動なり同政府は今日にても例の通り朝鮮爲中國所屬之邦の辞柄を握り居るや如何い姑らく問はず朝鮮は境を露國と接して實に東洋の要衝あり一旦露國之を奪ふて冬時不凍の良港を得ば東洋全面の禍ふ非ざる可きに目下在朝鮮支那外交官の擧動を見れば或は朝鮮の權臣私爭の事を知るもの丶如く其政治上の詭計い小説の上乗ふ入り朝鮮を以て恰かも想像畫の稽古場と爲すやなるらん今回も大院君を去て李袁二氏朝鮮上下を玩弄する日已に久しとの嘆を發せしめたるが如き是れ果て支那の禍ゑ、八月二十二日時事新報京城通信員の報に據れば在朝鮮露國公使館にては先般支那公使袁世凱氏の盧官より城内罐騒せる以來新に護衛兵と置き度由を申し居れり代理公使ウェーバー氏は現に其兵卒の送方を本國政府へ申出でゝ云々とあり公使館護衛兵とあれば其數も亦尋少あらんとの思はるれども今後其兵卒が朝鮮國に入り來り何ら内訌の都合抔なる時に朝鮮の或る黨派より此兵の力を假る等の出來事もありたらんには朝鮮の危急存亡は云ふに及ばず恐らくは日清兩國の利害にも大關係を及ぼすなる可し而して今日露國をしく兵を京城に駐屯せしむるの端を開きたるい在朝鮮の支那外交官ありと云はるゝも遺るゝ辭あかる可し彼の李鴻章は頗る大局に明ありと稱し天津に在て隱然朝鮮政略を支配しながら個ばかりの利害と知らざる者歟、或は之を知て別ち大に企る所のものなる歟、我輩はいよ〳〵之を思ふていよ〳〵不審に堪へざるあり兎に角に朝鮮の存亡は東洋諸國ふ對して其影響の利害實に甚ざ大なるあり我輩は朝鮮を如何するやの疑問に就て速かに東洋外交官の熟慮を請ざるを得ざるあり

官報

○告示第八十號

避病院入院患者ニ付添看護ヲナサシムルモノ乞フ者ハ老幼ノ外一人限リ之ヲ許シ食料トシテ一日金十錢ヲ給與ス

明治十九年九月九日　東京府知事高崎五六

○流行地虎列刺

流行地	月日	新患	新患死亡
京都府	九月七日	十四人	十五人
内上下兩京區ニ新患七人新舊死亡八人			
大阪府	同	九十一人	七十六人
内四區西成郡ニ新患四十九人新舊死亡五十五人			
神奈川縣	同	四十四人	二十五人
内横濱區ニ新患十三人新舊死亡十三人			
兵庫縣	同	三十七人	二十七人
内神戸區ニ新患五人新舊死亡四人			
長崎縣	同	十五人	九人
内長崎區ニ新患十二人新舊死亡六人			
新潟縣	同	七十九人	六十人
内新潟區ニ新患一人新舊死亡四人			
埼玉縣	同	十九人	十三人
千葉縣	同	四十五人	二十三人
茨城縣	同	六人	二人
三重縣	同	四人	四人
長野縣	同	十五人	十二人
青森縣	同	四十三人	十二人
秋田縣	同	五十五人	七十七人
福井縣	同	百二十五人	六十二人
富山縣	同	百九人	六人
岡山縣	同	十人	四人
廣島縣	同	四十七人	四十四人
山口縣	同	二十一人	十七人
和歌山縣	同	二十一人	九人
愛媛縣	同	十九人	十二人
高知縣	同	十九人	九人
福岡縣	同	十七人	九人
佐賀縣	同	十三人	九人
熊本縣	同	十一人	二十一人
小計新患千二十九人新舊死亡六百三十三人			
長崎縣	九月六日		十五人
内長崎區ニ新患七人新舊死亡六人			
新潟縣	同	百人	六十人
内新潟區ニ新患三人新舊死亡六人			
長野縣	同	十三人	十三人
青森縣	同	二十人	二十人
山形縣	同	三十八人	二十五人
宮山縣	同	百三人	六十三人
島根縣	同	二十九人	十九人
福岡縣	同	二十五人	十七人
佐賀縣	同	十九人	十九人
合計	小計新患四百九十九人新舊死亡三百七人		
	新患千五百二十八人 新舊死亡九百四十四人		

○流行地外虎列刺　北海道札幌去る六日より七日迄新患十九人、新舊死亡二十二人」群馬縣去る七日新患一人」栃木縣去る六日新患五人、新舊死亡二人」愛知縣去る五日新患五人、新舊死亡八人」静岡縣去る四日より五日迄新患九人、新舊死亡二人」福島縣去る六日新患三人」鳥取縣去る六日新患十人、新舊死亡十四人」大分縣去月三十日より三十一日迄新患二十三人、新舊死亡十七人

○虎列刺患者週報　去月十六日より同二十二日迄る一週間東京府外二府十七縣の虎列刺患者員數は曩に官報第九百五十三號（去る二日）を以て報告せしが其の後本週間に發生したる患者員數は左表の如し而して之と前週に比較すれば東京、京都、大阪、長崎、福井、島根、岡山、高知の各地方は患者益增加すと雖も神奈川、兵庫、新潟、千葉、三重、富山、廣島、山口、和歌山、愛媛、福岡、佐賀の各地方い稍々減少せり概して之を通算すれば本週の前週より減少せるふと患者七百九十二人死亡四百六十三人なり

流行地	月日	患者	新患者百に付死亡比例
東京府	自八月廿三日至同二十九日	一、七二〇	五五・三八
京都府	同	一、一四四	六六・五一
大阪府	同	一三〇	七二
神奈川縣	同	一、一〇八	五五・三八
兵庫縣	同	三五一	七七
長崎縣	同	二一六	六九・五八
新潟縣	同	一八〇	六〇・一一
千葉縣	同	一、六一七	二一・三七
三重縣	同	四九五	一五二
福井縣	同	五〇〇	七〇・三七
富山縣	同	一、〇〇七	一一四
島根縣	同	一、〇三八	六三・三三
岡山縣	同	二三二	八五六
廣島縣	同	一八五	五二・九四
山口縣	同	三五二	三〇九
和歌山縣	同	一〇五	六二・四二
愛媛縣	同	一五五	四一
高知縣	同	一八九	八二・〇〇
福岡縣	同	一七六	五六・八一
佐賀縣	同	一〇六	五五・八一
合計	同	九、五一一	五〇・七七
			五二七
			三六・六四
			八五
			一二二
			二三九
			六三
			五七・八六
			六七・九〇
			一二
			七三・三三
			一一六
			七四・八四
			一一二
			五九・二六
			一〇〇
			五六・八二
			七四
			六九・八一
			六〇・四四

（以上本年九月九日官報）

雑報

○電氣燈　東京電氣燈會社は曩に米國エヂソン氏發明の白熱電氣燈を煉瓦屋は勿論木造の家屋にも裝置するの目的にて設立以來日猶は淺しと雖も諸方より續々注文を受け越前堀の鰹屋大黒店が魁にて既に十餘箇も据へ付け頗る良結果と示せしより山ノ手邊の諸第邸を始め芝根津吉原に遊廓など從來瓦斯の餘光と仰がざる所より從て申込みも澤山あれば目下渡來中の同會社員が歸朝次第先づ麹町半藏門の前ふ一の中央局を置く手筈なる由又同會社にては二燭火力以上は數百燭火力のものにても點火して一燭火力一時間の點火費は一厘ふて受合ひ十燭火力以上は相應の割引を爲すと云へば今の日本の如く瓦斯の價の法外ふ高直なる處にては瓦斯に比して殆んど四割餘の廉價なりと故ふ通常街頭の瓦斯燈は現今一基に付一箇月四圓の割合なれども若ふ該電氣燈を以て之れに代ふれば二圓五六十錢にて點燈するとを得ると云ふ

○二重施條銃　最測ふては近來殆んど二重施條銃と用ゆる國なかりしがこの頃佛蘭西にては佛國と境を接するレイン及びアルサス、ローレインの守兵に悉く二重施條銃を渡したるより佛國にて之を聞きろの驚愕一方ならず曾て千八百八十六年ふ獨逸に倣ひ後裝銃を採用したるの前例に從ふべきう否の疑問起りたるが陸軍大臣ボーランヂーは銃と二重施條銃と二重施條銃と用ゆる國なかりしがこの頃佛蘭西にては佛國と境を接するレイン及びアルサス、ローレインの守兵に悉く二重施條銃を渡したるより佛國にて之を聞きろの驚愕一方ならず曾て千八百八十六年ふ獨逸に倣ひ後裝銃を採用したるの前例に從ふべきう否の疑問起りたるが陸軍大

○米國の人口　一七百萬人にして今日ふ至る人種なり白色人種は後外國より移住せる者にて其所の外國人い其數も概數七百萬内最も多きは獨逸人カンヂナヴヂヤ人より千八百二十年迄の間ふ移住せるもの八十九年より千百萬ときにふの國固有の人口ふ比すれば僅かに二十五萬住の數は千二百萬人口より多きと云ふ米國土生の人口ふ比したるもの獨逸人十萬人スカンヂナヴヂヤ人二十萬人コットランド人二百三十萬人住しふる者二百三十萬人

○北海道の蠶種　十七年より同地へ一社を設け年々蠶種を製造ふ買ひ蠶種を製造ふ遷すが爲めにやふなるより本年の郡及び信州諏訪郡にて今後兩三年間は同地ふ振遣して國的にて北海道へ輸出して國にて之今後兩三年全國の蠶種は概ね云ふ並し北海道のして彼歐種子病のばざる處なるは數しといへば各地のらば日本は蠶業にの次第につき田島於て蠶種を爲ゝ蠶所拜借の儀をろの目下北海道開發のと得るとあるべし擴張を謀るの見込は藏系商人あるも政府ふて之と賞仕來りふて本年政錢並上廿五錢中二中八錢全下三錢ふ爲め賞銀は餘程内大ふ低落して本年十廿錢女十錢より大差なき迄ふ低下悠々閑々殆んと内地れた間地方は役夫いものと云ふべしと云

○足利藏系織物品評會　開設せる足利梁田二色染實驗場を以て數百種の標本及びより產出したる織品に供し物品陳列場は